

## 群馬県立世界遺産センター 「世界を変える生糸の力」研究所について

中 島 秀 規\*

### はじめに

群馬県にある世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、高品質な生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、日本と世界との「技術交流」を主題とした近代産業遺産であり、富岡製糸場、田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴の4つの資産から構成される。

群馬県立世界遺産センター（以下「センター」という）は、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産としての価値や魅力をわかりやすく紹介するとともに、大学や関係機関、民間の方と連携し、世界遺産をはじめとした絹産業等の研究に取り組む施設として富岡市に設置された。

また、ガイダンス施設及び研究施設として期待されるセンターには「世界を変える生糸の力」研究所（略称：セカイト）という愛称が付けられている。この愛称には、これからも研究を続け、新しい情報を常に発信し、絹産業や絹に関わる文化財等の研究の中心施設としてあり続けたいという意味が、そし



世界遺産センター正面入口 ガラスサイン

て略称である「セカイト」には、世界遺産や絹産業等に興味をもっている人たちが親しみをもって利用していただけるような施設であり続けたいという願いが込められている。

### 1 世界遺産センター設立の経緯

平成25年度に「富岡製糸場と絹産業遺産群」総合管理活用機構検討委員会がとりまとめた「総合管理活用に関する機構（体制）基本構想」に基づき整備された。検討が進められる中、富岡市から富岡倉庫の利用について提案があり、富岡市が建物を改修した後の富岡倉庫に県がセンターを設置することを平成29年1月に決定した。以下が設置の根拠及び県が行った主なものの概要である。

#### (1) 必要となる根拠

##### ①世界遺産条約（仮訳）の要旨

4条 ・条約の目的は、顕著な普遍的価値を有する文化遺産及び自然遺産を認定し保護、公開するとともに、将来の世代に伝えていくこと。

5条(e) ・遺産の保護、公開を行う国又は地域研修センターの設置、発展を促進し、これら分野の科学的調査を推進すること。

##### ②世界遺産条約履行のための作業指針の要旨

114. 「連続性のある資産」については、個々の構成要素の管理を連携して行うための管理体制・メカニズムが不可欠で

\*なかじま ひでき・群馬県立世界遺産センター

あり、登録推薦書に明記することが求められる。

137. 連続性のある資産とは、下記のような明確に定義されたつながりがある2以上の構成資産からなり、:(中略)

c) 構成資産の過度の断片化を避けるため、構成資産の選択過程を含む、資産の推薦過程では、資産の一貫性と全体的な管理可能性を十分考慮すること。

### ③推薦書

「4資産全体で世界遺産としての価値がある」と記載しており、管理体制も同様に総括的なマネジメントや、総合的な情報発信等を行うことが適当。

## (2) 県が実施した主なもの

平成25年度

・「富岡製糸場と絹産業遺産群」総合管理活用機構検討委員会

総合的な保存管理、公開活用等を担う組織のあり方を検討した。養蚕、世界遺産、民俗学、報道、教育、観光等の専門家と構成資産所在4市町代表の計10名の委員により構成

平成28年度

・富岡倉庫1号倉庫にセンターを設置することを決定した。

平成29年度

・「富岡製糸場と絹産業遺産群」世界遺産センター(仮称)展示検討委員会

センターの展示に関して、具体的・実務的な面から助言を得た。学識経験者、県関係所属、構成資産所在4市町代表の計10名の委員により構成

平成30年度

・展示検討委員会の検討内容をもとに、展示物の製作を進めた。

令和元年度

- ・平成30年度に引き続き、展示物の製作を進めた。
- ・設置及び管理に関する条例を公布、施行した。
- ・愛称を決定し、ロゴマークを製作した。



SEKAITO

## 2 世界遺産センターの概要

### (1) 機能

センターに求められる機能は、各資産の特性を活かしながら、4つの資産をひとつの世界遺産として総括的にマネジメントしていくことである。調査研究や市町村との連携に基づいた最新の情報発信、世界遺産を守り将来に伝えていくための次世代への啓発活動が求められている。

#### ①普及啓発

世界遺産の価値や魅力等について広く啓発していく。学校教育連携を推進し、県や市町村が実施する郷土や地域の歴史学習へ積極的に協力することで次世代への継承を図る。また、地域住民をはじめとした来館者の触れ合いの場、絹産業に関わる文化交流の場としての整備を図る。

#### ②情報発信

世界遺産や絹産業に関わる情報を継続的に収集し、常に全体像を把握しながら、展示やデジタル媒体等で4資産全体に関わる情報発信を行う。

#### ③調査研究

市町村や関係機関と連携し、4資産を対象とした調査研究を推進する。調査研究の成果について、わかりやすく整理し情報発信する。また、調査研究成果については、国内外の研究者が利用可能な状態にする。人材育成等も視野に入れ、調査研究

の連携が更に広がるよう配慮する。



世界遺産センターの外観

## (2) 情報発信の考え方

- ①世界遺産としての価値をわかりやすく紹介・解説し、4資産でひとつの世界遺産であるという全体像が把握できるようにする。
- ②世界遺産の構成4資産だけでなく、絹産業、ぐんま絹遺産、日本遺産などについても総合的に情報発信・解説する。
- ③センターへの来館をきっかけに、各資産、ぐんま絹遺産、日本遺産などを周遊してもらうことを狙う。

## (3) 展示内容

初めて来館される方でも楽しみながら世界遺産の価値を理解できるように映像を使った展示が多くなっている。また、展示スペースが限られているため、パネル展示だけでなく、情報検索端末を使った展示も用意している。

来館した後に、世界遺産の構成4資産や日本遺産、ぐんま絹遺産などを訪れてもらうために、現地に行ったときに参考となるような見どころ情報や最新情報なども紹介している。

### ①世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」

世界遺産一覧表記載認定書や世界遺産登録推薦書をはじめ世界遺産としての価値や絹産業の歴史、技術の発展や伝播などについてパネルを用い

わかりやすく紹介している。情報検索「世界遺産としての価値」では、世界遺産登録までの歩みやイコモスの勧告、世界遺産委員会の決議文などが検索できる。



世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」コーナーの様子

### ②シアター

横約7.7m×縦約3mの大スクリーンで、稼働していた4つの資産を高精細CGで再現した映像(約15分)を上映。迫力のある映像により、まるで稼働していた当時の資産にいるかのような雰囲気を楽しむことができる。

また、インタラクティブVR技術により各資産ごとに敷地や建物内を移動する操作が可能であり、解説員の説明をはさみながらの詳細な解説も可能である。



シアター内の様子

### ③世界を変える4つの資産

富岡製糸場、田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴の4つの構成資産の価値や現地での見どころ情報をパネルと映像で紹介している。プロジェクシ



ヨンマッピングの手法により富岡製糸場の建物の変遷を紹介したり、養蚕新論をめくりながら田島弥平の養蚕法を学んだりできる。荒船風穴の現地の現在温度も紹介しているので、夏場の暑い日には、なぜたくさんの蚕種を貯蔵できたのか、その理由の一端に触れることができる。「まゆだまテーブル」という繭のかたちをした展示機器では、高品質な生糸の大量生産に貢献した4資産の連携やそれぞれのつながりなどを楽しみながら理解することができる。

また、4資産についてより詳しく知りたい人のために3基の情報検索機も設置されており、古写真をはじめ、富岡製糸場の工女の名簿や高山社の生徒名簿などが閲覧できる。



世界を変える4つの資産コーナーの様子

#### ④ぐんまの絹文化

群馬県には、世界遺産の4つの資産だけでなく絹に関する文化や遺産などがたくさんあり、それら群馬の絹文化について、ぐんま絹遺産や日本遺産「かかあ天下-ぐんまの絹物語-」を中心に紹介している。

この展示コーナーは日本遺産のデジタル紙芝居やイラストを多く使ったパネルを設置し、子どもたち向けに群馬県の絹文化をわかりやすく解説している。また、床に設置された「絹の国ぐんま宝地図」で、県内の絹文化の分布が一目でわかるようにしている。

この「ぐんまの絹文化」コーナーには、定期的な更新を行うトピックス展示があり、世界遺産や絹産業遺産関係の最新状況や研究成果などについて、

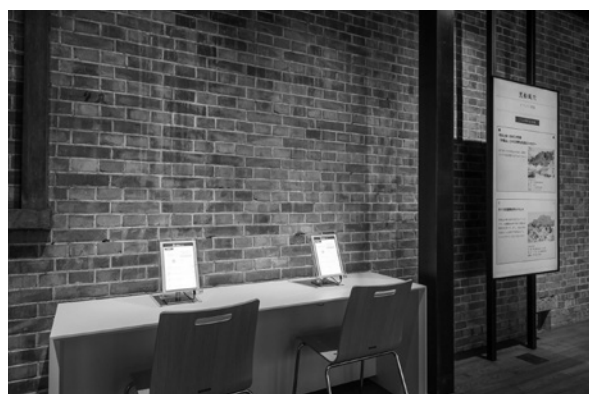
数か月ごとにパネル展示と実物資料で紹介している。



ぐんまの絹文化コーナーの様子

#### ⑤絹の国ぐんま情報コーナー

来館後に、世界遺産の構成4資産や絹遺産を見学いただくための情報や周辺の観光情報等について、デジタルサイネージやタブレット端末等で紹介している。



絹の国ぐんま情報コーナーの様子

#### (4) 建物

センターは、富岡市が交流の拠点として整備を進める富岡倉庫（繭の保管などに使われた倉庫群）の1号倉庫（明治34年（推定））に設置された。レンガ造りの倉庫をリノベーションし、富岡市が建物の改修を行い、群馬県が展示を整備した。

建物の改修の設計は、隈研吾建築都市設計事務所が行い、糸をイメージする炭素繊維を耐震補強に使っていることなどが特徴である。



糸をイメージした耐震補強の様子

### 3 普及啓発・学校教育連携

#### (1) 一般向け普及活動

展示室には解説員が常駐しており、来館者の質問等に対応できる体制になっている。また、世界遺産の価値や魅力を伝えるだけでなく、各資産や街の活性化の一助となるべく様々な普及活動及び広報を実施している。

センターから富岡製糸場までのオリジナル散策マップを作成・配布したり、世界遺産への興味関心を高めるためのイベントを実施したりする等、来館者目線で取り組んでいる。

#### (2) 学校団体受け入れ

学校団体向けに、ガイダンス動画視聴（約15分）と展示見学をセットにした見学プログラムを提供し、団体見学やグループ活動の受け入れを実施している。展示室には解説員が常駐し、スポット解説や質問対応を行っている。

今後は、各資産の操業当時を再現した高精細CGを活用して資産ごとのプログラムを開発し、より深く学習したいと考える学校や複数回の来館を考える学校に対応できるよう学習プログラムの充実を図りたいと考える。

また、センターの見学だけで終わるのではなく、構成資産とセットでの見学を推奨し、世界遺産や地域の文化財等に対する学習効果をより高めたいと考える。そのための魅力ある見学コースについての提案も必要と考える。

#### (3) 学校キャラバン

「富岡製糸場と絹産業遺産群」がある群馬県は、古くから養蚕・製糸・織物業が盛んであり、絹産業や絹文化が県内各地で受け継がれてきた。しかし、現在では子どもたちがそれらに触れることが少なく、群馬県が誇る絹文化の次世代への継承が困難になってきている。

そのためセンターでは、小学校等を対象として、世界遺産の価値や魅力を伝えるために「学校キャラバン（県世界遺産課からの引き継ぎ）」を実施している。

具体的には、富岡製糸場世界遺産伝道師協会の伝道師が、学校に出向き、「富岡製糸場と絹産業遺産群」をはじめ本県における絹遺産の魅力を伝えるために、座繰りによる糸とり体験や世界遺産の解説を実施している。

### 4 調査研究

センターの重要な役割の1つが「富岡製糸場と絹産業遺産群」や絹産業・絹に関する文化財等の調査研究に取り組むことである。そのため、東京大学名誉教授の石井寛治先生に名誉顧問に就任いただいた。

今後、石井名誉顧問の助言・指導を受け、関係機関と連携し、様々な調査研究が推進されていくことになる。そして、得られた調査研究の成果や収集した情報及び資料については展示やデジタル媒体等で発信し、絹産業における調査研究の拠点となるよう考えている。

#### (1) 目的

世界遺産としての価値である、生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、日本と世界との間の「技術交流」を主題に、「富岡製糸場と絹産業遺産群」及び「ぐんま絹遺産」の関係性や保存管理等について、市町村や関係機関、大学、民間団体等と連携しながら調査研究を行う。

また、その成果については、将来に伝えていくべ

き財産として展示や情報検索機能等で広く一般に向けて公開する。

## (2) 群馬県立世界遺産センターが行う調査研究

センターで進められる調査研究は、基本テーマ『「富岡製糸場と絹産業遺産群」における技術革新と技術交流に関する調査研究』のもと、「価値を高める研究」と「価値を伝える研究」の2本の柱を設定した。

「価値を高める研究」では、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の関係性や国内外の位置付け、技術面や経営面でのイノベーション等について石井名誉顧問の指導助言を受けながら、各資産及び分野ごとにセンター職員が行う予定である。

また、世界遺産を次世代にどのように継承していくか、学校教育との連携やバッファゾーン内の開発行為等に関する研究も重要だと考える。以下に具体例を示す。

### ①世界遺産としての価値を深める調査研究

「富岡製糸場と絹産業遺産群」における調査研究の総合的な拠点となるよう、資産相互の連携や県内外（国内外）の絹遺産との関係性等について、基礎資料を収集・調査するとともに研究を行う。他の産業遺産等との比較研究を行い、日本及び世界における「富岡製糸場と絹産業遺産群」の位置付けを明らかにすることで世界遺産としての価値を更に深める。

また、世界遺産登録時に、調査研究については、「フランスからの、あるいは国内の女性たちが指導者及び労働者としての役割を果たしたことによる専門技術の移転についての調査を行うこと。また、労働者の労働・社会的境遇についての知見を増すこと」という追加勧告を受けている。この「価値を深める調査研究」を推進していくことで、勧告に対応できるようにしたいと考える。

- ・富岡製糸場（ユネスコ勧告）  
例…官営期と民営期の女性労働者の労務管理の変化に関する調査研究

- ・田島弥平旧宅  
例…越屋根付き近代養蚕農家建築構造の日本全体への広がりに関する追跡調査

- ・高山社跡  
例…民間の機関である高山社が、技術伝習に関わり大きな役割を果たすようになった要因等に関わる調査研究

- ・荒船風穴  
例…日本最大規模を裏付けるため他の蚕種貯蔵風穴との比較研究

- ・4資産の関係性  
例…時代ごと（間接協力期、直接協力期（一代交雑種）、利害対立期等）の関係性の変遷に関わる調査研究

### ②世界遺産を将来へ継承するための調査研究

建造物保存や緩衝地帯内に関わる開発行為、学校教育や生涯学習との連携等、次世代への継承を軸とした、世界遺産の価値を支える幅広い分野の調査研究を行う。

世界遺産そのものの価値を高める研究も重要だが、それと同様に世界遺産を次世代を担う子どもたちにどのように継承していくかを研究することも重要だと考える。

開発行為に対する対応をどのようにするか、世界遺産を含む文化的景観をどのように守っていくか、そして次世代を担う子どもたちにどのように伝えていくかなどである。今まで以上に、学校教育との連携を推進し、地域の文化財への興味関心を高め、郷土への愛着をもってもらうことで、世界遺産の次世代を担う人材育成へとつながるのではないかと考える。

- ・遺産影響評価対応や包括的保存管理  
例…緩衝地帯における世界遺産としての文化的景観に関する調査研究



・学校教育連携

例…センターと学校の協働による「主体的・対話的で深い学び」を実現するための世界遺産活用に関する研究

・生涯学習推進

例…世界遺産を通じた地元の背景・歴史の学びを地域活性に活かす調査研究。(世界遺産伝道師協会等との連携を含む)

### (3) 調査研究に関わる事業

#### ①セカイト研究会

県及び市町村の調査研究に関わる職員、関係機関や民間の研究者等が参加する研究会を実施。「富岡製糸場や絹産業遺産群」や絹産業に関わる調査研究について、各資産の現状や課題等、共通理解を図るとともに、調査研究に携わる人材育成の場とする。また、テーマ別勉強会や現地調査等を随時行う。

セカイト研究会は、センターや市町村での調査研究をさらに発展、拡大させるために年4回の定期開催を予定している。令和2年度に実施された研究会では、各構成資産の登録から5年間の研究成果や、大学・関係機関の研究者の研究成果を報告いただいている。この研究会をとおして、「富岡製糸場と絹産業遺産群」に対する更なる理解を深め、今後の研究を発展させるだけでなく、新たな研究者の育成や、各資産の研究の発展や活発化を目指している。

また、研究会での報告者の選定や人材育成につながる場として、研究会とは別に、各資産やテーマごとに集まる勉強会を随時開催する予定である。調査研究に携わる人たちが、自身の研究の進捗状況や情報交換、意見交換の場として気軽に参加できるようにしていきたいと考える。

#### ②セカイトアーカイブの整備・充実

セカイトアーカイブとは、養蚕や絹産業に関する情報のハブ機能強化のため、関係書籍や業界誌、文書、古写真、各資産の帳簿等について検索可能

とするデータベースである。

調査研究を進める上では、既存の史資料の整理や、新たな史資料の発掘も重要な課題であり、養蚕や絹産業に関わる人々が少なくなっていく現状では、それらの貴重な史資料が滅失や散逸の恐れに直面している。そういった養蚕・絹に関する書籍・文書などの情報を収集し、検索可能な形で整理し、公開を前提とするデータベース化を現在進めている。

収集した情報については、センターでの調査研究に用いるだけでなく、一般公開し広く調査研究に関わる方々のお役に立てるよう随時整備していく予定である。また、それら資料について、所有者による保存が困難な場合は、適切な保管先を紹介し、貴重な史資料の保全を図る。

#### ③研究紀要の発行

調査研究の成果及び情報発信の手段等として年1回、研究紀要を作成し発行する。記載する内容についてはセンター内で精査・決定し、配布先の選定・発送等を行う。

センターでの調査研究をはじめ、セカイト研究会等に参加していただいた研究者へ寄稿も依頼しながら内容の充実を図る。

### (4) 調査研究成果の活用

調査研究成果は、センターでの展示をはじめ研究紀要・研究会・講演会・講座等で公開するほか、シンポジウムや企画展等の事業活動に随時反映させていく。

また、登録10周年等の節目に向けて、研究成果を企画展等の形で発表できるよう、市町村や関係機関と連携、協力して調査研究を進める。

調査研究成果の具体的な活用例は以下のとおりである。特に、調査研究に活用できる資料の情報を収集・データ化を強化していくことでセカイトアーカイブの充実へとつなげたいと考える

- ①世界遺産センターでの展示（他施設との共催による企画展等も含む）

- ②セカイトアーカイブによる情報公開
- ③世界遺産センター及び各資産での解説
- ④研究紀要、年報等
- ⑤研究会、講演会、講座等
- ⑥学校教育連携
- ⑦生涯学習推進
- ⑧民間活動（伝道師活動等）への情報提供

(5) セカイトを核とする調査研究体制の確立

センターですべての調査研究を進めることは不可能であり、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産をもつ富岡市、伊勢崎市、藤岡市、下仁田町との協力・連携は欠かせない。また、群馬県には、県立歴史博物館や日本絹の里、蚕糸技術センター等、世界遺産や養蚕・製糸・織物について研究している施設もある。

これらの様々な関係機関との協力体制を構築することで、情報共有や意見交換がよりスムーズになり、それぞれの調査研究も充実していくと考える。センターの設置にあたり、関係機関の研究者が集まるセカイト研究会（図1）を発足させた。この研究会で様々な情報が共有されるとともに、特定のテーマや分野で積極的なつながりが広がることを期待したい。

この研究会を核として、世界遺産や絹産業に関わる機関や研究者のネットワークが構築されると幸いである。

5 おわりに

センターは「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産である富岡製糸場、田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴はじめ県内の絹遺産の価値や魅力を伝えていく施設である。世界遺産への興味関心を持ち続けてもらうためには、展示や解説はじめ調査研究や学校教育や生涯学習との連携を充実していく必要があると考える。

世界遺産の価値を高めるために何が必要なのか、世界遺産を継承していくためにどのようなことが求められているのか、また、イコモス勧告等のように外部からの課題も出てくる。公的機関として求められる研究テーマも出てくるであろう。時代や世間が求めるニーズにも対応できるようにしていく必要がある。センターの機能が理解され、調査研究の中心施設として稼働していくために、また、来館者や研究者の期待に応えられる施設であり続けるために、関係者の皆様と協力連携しながら、しっかりとした研究成果を蓄積していきたいと考える。

図 1

